

I-③ 小6・中2合同で行うSST授業の実践「新生活に活かせるリフレーミングを学ぼう」

小学6年生と中学2年生は、この一年間、コミュニケーションに関するソーシャルスキルトレーニング(SST)の授業をそれぞれ行ってきた。その成果がより実生活に活かされるよう2月14日(金)に両学年が合同で授業を行った。授業では、自分の短所だと思っていた部分を、見方を変えることで強みへとつなげていくワークを行い、意見交換をした。6年生は、2年生の言葉の表現の豊かさ、説明の的確さにあこがれを抱き、また、2年生は6年生の積極性に感心していた。

ワーク後の質問タイムでは、6年生から2年生に中学校に関する様々な質問があり、2年生が丁寧に答えていた。6年生からは「中学校生活が楽しみになった」「新生活への不安が少なくなった」との声も聞かれ、互いにコミュニケーションを上手にとり、リフレーミングのすべを学んだようだ。

1 SSTの授業の様子



①担任・養護教諭・SCによる授業導入



②自己紹介のモデルを示す中学校養護教諭

2 小6・中2の意見交換の様子



①「30秒自己紹介」でわたしをアピール！



②グループみんなでリフレーミング



③2年生に質問する6年生「先輩教えて！」



④2年生のアドバイスに6年生は興味津々

3 効果(終了後のワークシート記述より)

子どもたちの主な感想は以下の通りであった。授業に関するテーマに関することはもちろんのこと、小学6年生と中学2年生で行うコラボ授業の効果の記述もたくさん見られた。

小学6年生の感想(一部)

- ・コミュニケーションで難しいと思っていたところがよく分かった。中学校に行くのが楽しみになった。
- ・これからの自分の生活に役立つと思った。中学生が優しくしてくれて、とても安心した。
- ・コミュニケーションの方法を知ることができて良かった。自分の短所を長所に変えていきたいと思った。

中学2年生の感想(一部)

- ・自分の短所だと思っていたところを、グループの人がリフレーミングしてくれて嬉しかった。
- ・6年生の不安な気持ちが分かった。自分が入学したときのことを思い出し、優しくしようと思った。
- ・6年生が積極的に自分の意見を発表していて驚いた。リフレーミングを自己紹介に使っていきたい。

担任の声

6年生は自分の短所だと思っていたことを様々な言い換えてもらうことで、少し前向きに自分を捉えられるようになったのではないかなと思。一つの活動を小・中で行うことで、いつものSSTにプラスして、中学校への垣根が低くなるという良さがあった。6年生は、中学生へのあこがれや期待が大きくなり、2年生は自分が最上級生になったときの新1年生に対して心構えができたのではないかと思う。今後、これまで行ってきた日常の生活場面でのSSTを中学生と行くと、「中学校でその言い方は～」などと中学生からアドバイスをもらえる場もできそうだなと思う。

養護教諭の声

小学生と中学生が一緒にいる中で、自分の短所をポジティブに捉えるリフレーミングを考える際に、中学生が小学生に教えてあげている姿が多く見られた。小学生の感想の中にも「さすが中学生は言葉をよく知っていた。私もあんな中学生になりたい」などあこがれの気持ちが表れていた。中学生も、小学生と一緒に学んだことで、「次は最高学年になるので、後輩に優しく接したい」などとリーダーとしての気持ちが芽生えてきていると感じた。SSTを学習して、よく保健室に来る子供達の中にも、授業で学んだスキルを使って、友達と話すことができている場面を見かける。見かけた際には、「今のよかったよ。学んだスキルを使っているね」と伝えることで、子供達の自信につながり、スキルが定着していくのだと思う。家庭でも、子供達がSSTを学んだことで、変化している場面があると思うので、それをキャッチしていきたい。

スクールカウンセラーの声

一年間のSST授業では、子どもたちと一緒にたくさんのテーマを学んだ。その学びをより実生活へとつなげ、般化を促していくためにはどうしたら良いかと試行錯誤していたところ「中学生と一緒にやってみませんか？」と担任の先生からご提案いただいた。実際に授業をしてみて、今回のスキル「リフレーミング」だけでなく「中学校生活が楽しみになった」「新生活への不安が少なくなった」など、新生活に関するポジティブな変化がアンケートで多く見られた。中学生と少人数のグループで、一つのテーマについて助け合いながらワークを行なったことで、これまで学んだスキルへの自信、新生活へのイメージ作りができたのではないかと感じている。今後は、学校で学んだスキルをどのように学校生活や家庭生活で活かしていくか、またその効果を持続させていくか、ということに着目している。そのためには、ご家庭での声かけが不可欠となることから、学びの成果を「教育相談だより」などでご家庭へ伝えていきたいと思う。